やどかり通信

2022年12月27日発行
NPO法人やどかりサポート鹿児島の活動内容をお届けします。

赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン
～第4回 居場所を失った人への緊急活動応援助成～

居場所を失った人への
緊急活動応援助成

やどかりサポート鹿児島は，居場所を失った人への緊急活動応援助成事業として以下の活動を実施いたしました。
活動期間：2022年1月～2022年12月

居場所づくり運営　～誰もが気軽に参加できる居場所をつくる～

鹿児島市の下荒田，郡元の2会場で計74回の居場所運営を開催しました。
コロナウイルスワクチンの接種・コロナ関連助成金受給の手続きが分からない方への支援をはじめ，当法人が推進する『つながるファイル』を通じて孤独・孤立を考える機会を創出しました。

個別訪問活動　～コロナによる緊急事態においても決してつながりを無くさない～

8名の訪問スタッフが107名を対象に合計251回の個別訪問を行いました。
活動期間中，鹿児島市においても2度の緊急事態宣言が発令されました。コロナ禍により孤独・孤立化が懸念される一方で，感染拡大防止のための取り組みが必要となり葛藤と議論も生まれましたが，以下にある事例の通り孤独・孤立を防ぐつながりの深化と拡大を実現することができました。

つながりの深化と拡大の事例

～安否確認のためのLINEグループの運用拡大～
当法人は，安否確認・小さなSOSを気軽に発信できる場として当事者同士のLINEグループを推進してきました。居場所運営と個別訪問を通じてそのLINEグループの運用を拡大することができました。

～他者との接点を強く望まない方の事例～
玄関ドアポストに生活状況を確認するシートを残し，文通形式で近況確認を実施しました。訪問や携帯電話を使用しない方法の必要性を改めて感じました。

～当事者同士の緊急連絡先の確保～
有事の際の緊急連絡先を携帯できるように「緊急連絡先カード」作成の促進活動を行った結果，孤独・孤立状態にあった方やその傾向にある方同士が緊急連絡先となる取り組みを実現しました。

個別訪問を受けた方の声(70代 女性)

孤独感，マスクをすることのつらさ，自身の感染だけでなく他人をも感染させる可能性があることに大きな不安がありました。接触を避けることにより，心の距離まで遠くなった感じがありました。個別訪問を信頼して受け入れられたのは「やどかりサポートのスタッフ」だったからです。そこで生まれた新しい人間関係は，私にとってかけがえのないものになっています。

今後の課題として

今後の課題として，携帯電話を意図して所有しない方への安否確認の実施方法が挙がりました。通信手段に頼らない方法の確立や携帯電話を持つことの必要性を伝えていくことに今後も取り組んでいきます。

**孤独・孤立を防ぐためのつながりとそこから生まれる支え合いの創出と維持を実現するために
今後もこれらの活動を継続して参ります。当法人の活動へのご理解・ご支援を宜しくお願いいたします。**

特定非営利活動法人やどかりサポート鹿児島
鹿児島県鹿児島市下荒田4-30-5 プレジデント下荒田403号
TEL：099-800-4842 / FAX：099-800-4845

Facebookからも
活動内容をご確認
いただけます！